

## この地域の地層および化石

### トウキョウホタテ (*Mizuhopecten tokyoensis*) の化石

トウキョウホタテは絶滅した二枚貝で、形と大きさはホタテに似ています。44,000年以上前にまで遡る多数の化石標本が鳴門海峡とその周辺で、*Palaeoloxodon naumanni* (絶滅したナウマンゾウ) などの哺乳類の化石に混じって発見されています。トウキョウホタテの化石が鳴門海峡の激しい潮流によって海底から引き上げられたのち、トロール漁船の網にかかって発見されることもあります。

### 和泉層群の岩石

鳴門の岩だらけの地表では、露出岩石の表面に縞模様が見られることがあります。これは和泉層群という、中央構造線 (日本最長の断層線で、多くの地震の原因となっています) の北側に沿って存在する狭い地層です。およそ 7,000 万年前の白亜紀後期にまで遡るこの和泉層群は道路沿いや海岸でよく見られます。白い部分は砂岩で構成されている一方、黒っぽくぼんだ部分は泥岩で形成されています。非常にまれに、アンモナイトや二枚貝などの化石がこの縞模様の中に見つかるかもしれません。この模様の砂岩は容易に採石して板状に加工できるため、墓石としてよく利用されています。